

そう だい
総 題 「申命記に見る現代の真理」

だいさん か えいえん けいやく
第3課 永遠の契約

しばた ひろし
柴田 寛

あんそくにちごご こんしゅう
1. 安息日午後：今週のテーマ

そうせい き せいしよろくじゅうろくかん さいしよ しょ とうじょう えいえん けいやく もくしろく せいしよろくじゅうろくかん さいご しょ
創世記(聖書 6 6 巻の最初の書)に登場する“永遠の契約”は、黙示録(聖書 6 6 巻の最後の書)
とうじょう えいえん ふくいん み ごと えいえん ふくいん さま さいりん むか まえ わたし
に登場する“永遠の福音”と見事につながっています。“永遠の福音”は、イエス様の再臨を迎える前に、私
たちぜんせかいにのべつたえるべき福音のメッセージですが、その中身は、この世界に罪が入り込む前から約束さ
れていて、おどろ びっくり 救いの約束であり、それは神様の一方的な愛によって結ばれた契約なのです。私たちは、
かみさま おお あい こた よ
神様のこの大きな愛にどう応えたら良いのでしょうか。

にちようび けいやく ふくいん
2. 日曜日：契約と福音

かみさま むす くだ けいやく すく やくそく ふくいん すく
なぜ、神様が結んで下さった契約(救いの約束)が福音(グッド・ニュース)なのでしょう。それは、その救
いの条件が、「私(神)をただ信じれば良いのです」というものだからです。【問1】の聖句を確認して下さい。
じょうけん わたし かみ しん よ といいち せい かくにん くだ
それらに共通するメッセージは、「私(神)を信じるなら・・・祝福します」というものです。アブラハムはそ
とお しん ぎ かみさま よ みと ひと だいひょう すべ ひと てほん
の通りに信じて義とされた(神様に良いと認められた)人の代表であり、全ての人のお手本です。

げつようび いの
3. 月曜日：ネヘミヤの祈り

【問2】の聖句は、イスラエルの民がよい約束の地カナンに入っていくにあたり、まず、そこに住みついて
いる巨人(アナク人)たちを追い払わねば入っていけなかったのですが、その戦いに神様が介入し、勝利を与
えて下さるという約束です。しかし、「あなたは『わたし(イスラエルの民)が正しいので、主はわたしを導いて
この土地を得させてくださった』と思っはならない。」(申命記 9 : 4)とあるように、その勝利はイスラエル
の民の正しさとは無関係に、神が先祖たち(アブラハム、イサク、ヤコブ)に約束されたことに対して忠実であ
られるから、与えられるのだと言われました。ここに、私たちの功績(何かをなしとげたかどうか)とは無関係に
降り注ぐ、神の恵みを見ることができます。“永遠の契約”とは“恵みの契約”なのです。

では、イスラエルの民に求められていたことは何でしょうか。それは、この神の恵みや神の忠実さを知った民
として、どのように神に応答し、どのような関係を保ちながら生活すべきかを、世にあかしすることでした。

かようび けいやく しょ
4. 火曜日：契約の書

しんめいき ごしょう やくそく ち どうちやく すんぜん たみ よんじゅうねんまえ じゅつかい ないよう
申命記5章は、約束の地カナンにいいよ到着する寸前の民に、40年前にさずかった十戒の内容を、
ふた た かた き ぼめん えいえん けいやく けいやく たみ たいど さいにんしき
モーセが再び語り聞かせている場面です。それは“永遠の契約”と、その契約への民の態度を再認識させるた
めのもでしたが、しんめいき ごしょうさんせつ しゅ けいやく われわれ せんぞ むす いま い
申命記5章3節の、「主はこの契約を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きてい
る我々すべてと結ばれた」という言葉は、その“永遠の契約”が、もじどお じだい たみ たい
文字通りすべての時代のすべての民に対して
むす けいやく けいやく にんしき じじつ えいえん けいやく せかい そんざい まえ てん た
結ばれた契約であることを認識させるものです。事実、“永遠の契約”は、世界が存在する前に、すでに天で立
てられていたものでした。つまり、もしこの地球が、ちきゅう しはい とき
サタンによって支配されるようなことになれば、その時は、
かみ おお ぎせい はら よ と もど やくそく やくそく たい わたし
神とキリストが大きな犠牲を払ってでも、この世を取り戻すという約束だったのです。その約束に対して、私
たちはどう応えるべきでしょうか。それは、わたしをおいてはかみに神があつてはならない(しんめいき ご なな ひと
申命記5:7)という一
こと
言につきるのではないのでしょうか。

5. 水曜日：神の特別な民

れきしじょう そんざい くに いま いせき くに
歴史上にかつて存在した国で、今は遺跡となってしまった国がいくつもあります。それらがどんな国だったの
か、その全てを知ることはできませんが、ひと たし しん かみ したが くに
一つ確かなことは、真の神に従うことのない国であったということです。
くに つみ えいきょう か よ じめつ なか かみ
そのような国は、この罪の影響下にある世では、いつか自滅してしまうのです。そのような中であつて、神は
とくべつ たみ おこ てんち つく かみ けいやく なか い たみ かみ おきて じゅつかい まも
特別な民を興されました。それは天地を造られた神との契約の中に生きる民、すなわち神の掟（十戒）を守
り、サタンの声ではなく、かみ こえ したが たみ というく せいぐ あじ くだ かみ こえ したが
神の声に従う民です。【問6】の聖句をじっくり味わって下さい。神の声に従うと
いうことが、いかに安全で祝福に満ちたものであるかを。かみ ちゅうじつ たみ たから たみ くだ
神はそのような忠実な民を、「宝の民」として下さ
るのです。この祝福はしゅくふく えいえん けいやく いま か いま いちいん しゅ まね
“永遠の契約”であり、今も変わりません。「今すぐ」その一員となるようにと、主は招
いておられるのです。

6. 木曜日：他のたとえ

こんしゅう けいやく ことば なんと みみ いっぱんてき けいやく ことば よ
今週は「契約」という言葉を何度も耳にしましたが、一般的に「契約」という言葉がもつイメージは良いも
のではありません。なぜならそれは、やぶ そん むかんじょう つめ
「もし破ったら、損をするのはあなたです」という無感情で冷たいものだから
です。でも、かみさま わたし あいだ むす くだ けいやく
神様が私たちとの間に結んで下さった契約は、そのようなものではありません。それは、ちょう
ど親が、おや こども すこ せいちょう ねが いろいろ じゅんぴ かみ わたし れいてきせいちょう ねが ようい
子供たちの健やかな成長を願って色々と準備するように、神が私たちの霊的成長を願って、用意
して下さったものだからです。くだ しんめいき じゅうよんしょういっせつ よ ちゅうもく くだ
申命記14章1節の呼びかけに注目して下さい。「あなたたちは、あなたたち
の神、主の子らである。」えいえん けいやく こ おも かみ あい で めぐ
“永遠の契約”とは、このような子を思う神の愛からあふれ出た恵みなのです。

7. 金曜日：さらなる研究

にじゅうろく しる と せいしん りっぽう じぶん ちから まも せいしん
テキスト26ページに記されていた「捕らわれの精神」とは、律法を自分の力で守ろうとする精神です。
かんしや よろこ くつう じ こまんぞく えいえん けいやく あらわ
ここには感謝も喜びもなく、ただ苦痛か自己満足のどちらかがあるだけです。しかし、“永遠の契約”に表され
た、かみ あい りかい もの いまし まも しんめいき にじゅうろく じゅうはち い
神の愛を理解した者は、「すべての戒めを守るであろう」(しんめいき 26:18)と言われています。それ
はかみ えいえん あい かんしや さんび しぜん おうとう しゅ とら たみ おおぜい
神の永遠の愛への感謝と讃美にあふれた自然な応答なのです。主は、このような、捕われていない民が大勢あ

られることをお望^{のぞ}みです。その民との間^{たみ あいだ}には、神との深い愛^{かみ ふか あいじょう}情^{きずな むす}で、絆^{きずな むす}が結ばれているからです。

【話し合^{はな あ}いのための質^{しつもん}問^{もん}】

①信^{しん}仰^{こう}さえあれば、神^{かみ}の律^{りつ}法^{ぽう}など守^{まも}る必要^{ひつよう}はない、という声^{こえ}が聞^きこえてきますが、あなたもそう思^{おも}いますか？

②申^{しん}命^{めい}記^{きに} 2 6 : 1 6 ~ 1 9 を読^よんで、主^{しゅ}の「宝^{たから}の民^{たみ}」とは、どのような人^{ひと}たちか、話^{はな}し合^あってみま

し

よう。
③神^{かみ}様^{さま}と深^{ふか}い愛^{あい}情^{じょう}の絆^{きずな}を結^{むす}びたいですか？ そのため^よにはどうしたら良^よいと思^{おも}いますか？